第６期ジュニア・アカデメイア
【若者の緊急提言】コロナ禍で見えた日本の課題と解決策
「地方の教育」グループ サマリー

研究テーマ：地方でこそ実現できるキャリア教育

１．解決すべき課題

・地方では、学生が希望する教育内容を提供する高校が通学範囲に存在しない事がある。地方における高校教育の選択肢の少なさを課題とする。

２．問題意識

・地方は高校の数がそもそも少なく、選択肢が乏しい。
鳥取県 32 校　⇔　東京都 428 校
求める高校によっては、地元を出て下宿生活を余儀なくされる。
・高校は、生徒それぞれがキャリア志向に応じて選択する。「高校の選択肢の少なさ」は、その後のキャリア、自己実現の可能性を毀損することに直結する。

３．現在みられる課題解決策とその問題点

①総合学科高校（全国に３８１校）
・普通科、専門学科に並ぶもので、生徒一人一人の自分の個性や適性の発見を目的として、幅広い科目から自分で科目を選択し学ぶことができ、文系・理系、普通科・商業科といった枠に捉われない教育が可能。
⇒多数の学科を開設する必要があり、教員の負担大。キャリア教育は低調。
②公立塾：隠岐國学習センター「夢ゼミ」
・島根県立隠岐島前（おきどうぜん）高校と提携する公立の学習塾。
・「夢ゼミ」では、生徒一人一人が自己の将来の夢を発表し、ｉターン人材の指導、アドバイスを受けながらその実現のための計画立案等を行う。⇒i ターン人材の存在が前提となるのが課題。
③地域型問題解決型学習（PBL: Project Based Learning）
・生徒が地元の企業、自治体と共に、地域の問題解決を一緒に検討する学習方法。地元の課題について、身近な大人たちとの解決策を検討することを通じて自身のキャリア観を養成する（福島県立福島高校の事例）。
⇒キャリア志向が芽生えても、それに応える課類を持つ高校の選択肢がそもそも少ない。

４．グループとして考える課題解決策

○「総合学科高校を改良し、キャリア特化型高校に衣替えする」

地方の特性である『少人数』『地域との繋がりの強さ』を生かし、総合学科高校を、充実したキャリア教育を受けることができるキャリア特化型高校に衣替えする。

・少人数教育が可能：教員１人当たりの生徒数高知県：10 人⇔東京都 17 人
教員の主な役割は「キャリア教育」を行うこと（通常の学科教育は AI 教材を活用し、負担を軽減）

・地域社会との連携によるキャリア教育が可能
キャリア教育には大人の支援が必要。都市部に比べ、地方では公共セクター（市役所等）や民間セクター（地元の商店）と連携しやすく、実践的なキャリア教育が可能。
“起業経験は地元の商店街から”

⇒若者の都市部への流出を阻止
「地元でのキャリアが描けないから高校卒業後『なんとなく』都市部へ」という若者たちが地元に残ることができる。

⇒全国で人口減少が加速する中、地方でこその新たなキャリア教育モデルを先行して構築。

５．残された課題

・各地方・地域・高校のキャリア教育の提供科目の基準をどうするか。
⇒地域の産業界へのニーズ調査等を行う必要。
・キャリア教育を行える教員の育成が必要。
・高校のネットワーク化
⇒少人数の特徴を活かして「高校版：単位交換制度」を作り、他高校との交流を促進する等、更なる魅力づくりを検討。